第一章　緒　論

一　論理學の意義
- 正しき思考と誤れる思考
- 必然と當爲
- 論理學と心理學の關係

第二章　原　理

一　論理的公理（思考の原則）（思惟の法則）（思考の原理）

1　自同律（同一律）　公式、甲は甲なり。

2　矛盾律　公式、甲は甲であり非甲であることは出來ない。

3　排中律　公式、甲であるか非甲であるより外にない。

4　充足理由律（理由律）　思考に充分の理由の伴ふことを必要とする。

◇思惟の法則に就て述べよ。（島根小本正）

◇思考の形式とは如何なることか。（岐阜小本正）

概念、判斷及推理の關係　三者は依存關係をもつてゐる。

◇概念の意義を述べ且概念の種類名稱を例示せよ。（青森小本正）

◇概念の本質を詳說せよ。（東京小本正）

二　概念

- 思考の形式
  - 本質的屬性
    - 共同的屬性
    - 特有的屬性
  - （概念構成上必要なるもの）
  - 偶有的屬性　概念の內容としては缺いても差支なきもの
- 概念の分量
  - 內包と外延　屬性の總和が內包、概念の及ぶ範圍が外延
  - 內包と外延の關係　相反する方向へ增減
- 概念の種類
  1. 對象概念と屬性概念　主語＝客語の地位
  2. 絕對的概念、相對的概念　山、川、人＝晝と夜、天と地
  3. 積極概念、消極概念　有機體、幸福、有＝無機體、無、無智
  4. 單純概念、複合概念　性質、狀態關係
  5. 單獨概念、一般概念　東京、この人、楠正成＝人類、動物
  6. 同一概念、不同一概念　內包、外延の同一、金と黃金、父子と兩親
  7. 等價概念、不等價概念　外延の同一、東京と日本の主府
  8. 上位概念下位及同位概念　類、種、下位概念相互の呼稱
  9. 離接概念、交叉概念　動物と植物＝赤色と黃色
  10. 個別概念、集合概念　家、人、金屬＝軍隊、艦隊、森林

11. 矛盾概念、反對概念　生と死、眞と僞＝大と小、高と低
12. 乖離概念、同類概念　三角形と德、赤と圓、學問と色

範疇　人間の思考上要求された最高の類概念を言ふ。

◇範疇を說明せよ。（鳥取小本正）

三　判斷

- 判斷の本質
  - 判斷の意義
  - 命題及其の要素　主辭、賓辭、連辭

◇右の判斷の正誤を問ふ

今年は天候が非常に惡い、故に今年はきつと不作である。（鶴岡小本正）

- 判斷の種類（カントの分類）
  - 分量
    - 全稱判斷
    - 特稱判斷
    - 單稱判斷
  - 性質
    - 肯定判斷
    - 否定判斷
    - 不定判斷
  - 關係
    - 定言的判斷
    - 假言的判斷
    - 選言的判斷

- 樣式
  - 蓋然的判斷
  - 實言的判斷
  - 必然的判斷
- 概念の周延
  - 周延不周延
    - 範圍の一部をあらはすか、全部をあらはすかの問題
    - 四種の判斷
      - 周延不周延
        - 1 全稱肯定判斷　總てのSはPである。
        - 2 全稱否定判斷　總てのSはPでない。
        - 3 特稱肯定判斷　或SはPである。
        - 4 特稱否定判斷　或SはPでない。

◇定義的三段論に於て媒概念は一度は周延せねばならぬ理由を述べよ。

（岩手小本正）

- 推理の本質
  - 既知の判斷から他の判斷を定立すること
- 同義
  - 換質法
  - 無條件的全稱判斷
  - （新判斷が元の判斷と全く同義な場合）

四　推理

- 直接推理
  - 對當
    - 從屬
    - 反對
    - 小反對
    - 矛盾
    - （分量又は性質分量性質共に異なる場合）
  - 換位
    - 同質換位
    - 換質換位
    - （元の判斷の主賓を轉換する場合）
- 間接推理の組織
  - 大前提小前提から斷案を生ずる
- 間接推理の種類
  - 演繹、歸納、類比
  - 定言的三段論法の格式
  - 定言的三段論法の七法則
    - 1 三ヶの判斷と三ヶの概念
    - 2 媒概念は前提に於て一度は周延する

間接推理

演繹推理

各格の特質と作用

一 格

3 前提で周延しない概念

4 兩前提共に否定であるとき

5 一前提が否定なるとき斷案は否定

兩前提共肯定なるときは斷案は肯定

二 格

6 兩前提共に特稱であるときは斷案に達しない

7 一前提が特稱であるとき斷案は必ず特稱

三 格

假言的三段論法

混合假言推理

純粹假言推理

(デイレンマ)兩刀論法

構成式

破壞式

不規則推理

省略推理

複合推理

前進推理

類比推理

特 色

法 則

效 用

◇演繹法と歸納法を說明せよ。

◇歸納推理の特質を記せ。(鳥取小本正)

◇格の效用、周延を說明せよ。(神奈川小本正)

◇定言的三段論法の格と式を例示しこれを說明せよ。(宮崎小本正)

◇定言的三段論法の法則「兩前提の一が特稱なれば結論も特稱なり」を證明せよ。(兵庫小本正)(京都小本正)

◇思惟の法則をあげ簡單なる說明をせよ。(靜岡小本正)

◇媒概念の不周延の誤謬の意義を記しこれを例示せよ。(神奈川小本正)

◇假言的三段論法の法則を逃べよ。(高知小本正)

◇假言的推理とは如何なるものか。(兵庫小本正)

◇兩刀論法の實例をあげ說明せよ。(神奈川小本正)

◇類比推理の實例を一つ作れ。(福岡小本正)

歸納推理の性質

演繹推理との相違點、歸納推理の例及論式

- 歸納推理
  - 完全歸納推理
    - あり得べき總ての場合を網羅して全稱判斷の斷案を下す。
  - 眞正歸納推理
    - 個々の事實から一般の法則を推定
  - 眞正歸納推理の法則
    - 天然の齊一、二法則
    - ◇歸納推理につき知れる處を記せ。（藤島小本正）

第三章　方法論

一　方法の意義

- 原理論と方法論
  - 思考の本質法則＝原理論、知識を研究しこれを統整するには如何なる順序方法によるか＝方法論
- 分析と綜合
  - 分析
    - 要素的分析
    - 因果的分析
    - 論理的分析
  - 綜合
    - 再生的綜合
    - 構成的綜合

（歸納と演繹　兩者を併用することによつて正しい思考が得られる。

二　知識探究法

- 觀察及實驗
  - 觀察の意義
  - 實驗の意義
  - 觀察と實驗
- 彙類及枚擧
  - 彙類
  - 枚擧
    - 單純枚擧法
    - 統計的枚擧法
      - 代表値、平均數、中間數、最大頻數
- 因果親定
  - 因果律
    - 因果の關係と天然の齊一
    - 因果律の意義
  - 原因と結果
    - 契合法
    - 差異法
    - 契合差異法
    - 共變法
    - 剩餘法

◇因果關係規定の方法如何。（長野小本正）

◇知識探究法上の誤謬につき述べよ。（千葉小本正）

- 臆說
  - 臆說の性質
    - 意義、臆說と論理、臆說と想像、相像と論理、臆說と定說
  - 臆說の五條件
    - 1 必要なものであること　2 空想であつてはならぬ
    - 3 事實と相應しなくてはならぬ
    - 4 他の原理と矛盾してはならぬ
    - 5 證明され得るものなること
- 檢證
  - 檢證と其方法
    - 資料的檢證
      - 意義
      - 方法
    - 形式的檢證
      - 意義
      - 方法
    - 定理
      - 意義
      - 定理と科學

三　知識統制法

- 定義
  - 語義的定義と實質的定義
    - 言葉其ものゝ解釋＝語義的
    - 概念の成立に必要なる屬性をあげ內容を視定する＝實質的
  - 列擧的定義と本質的定義
    - 定義しやうとする概念の屬性を列擧するもの＝列擧的
    - 主概念と區別さるべき種差をあげて表示＝本質的
  - 定義の五條件
    - 1 定義しやうとする概念の本質的、屬性をあげなければならぬ
    - 2 定義される概念を含まぬこと　3 肯定的であること
    - 3 適切であること　5 簡單明瞭であること
    - ◇定義をなすに當り守るべき法則を述べよ。（新潟小本正）
- 分類
  - 分類と區分
    - 兩者の相違點
    - 區分原理と區分肢
  - 分類の法則
    - 1 一段完了をするまでは同一の區分原理によること

2 交錯區分となつてはいけぬ
3 分類して概念の總和、された類概念と外延を等しくする
4 漸進的でなければならぬ

分類の種類
- 二分法
- 三分法及多分法
- 自然的分類と人爲的分類

◇分類の法則を說明せよ。（沖繩小本正）

論證と論駁

論證論式
- 直接的論證
  - 綜合的
  - 分析的
- 間接的論證
  - 反證的
  - 排斥的

論證の法則

第四章 誤謬論

一 知識探究法上の誤謬
- 觀察の誤謬　觀察しなかつたりあやまつたりした場合
- 概括の誤謬　皮想的な概括をした場合
- 想像の誤謬　因果の關係をあやまつた場合

二 知識統整法上の誤謬

論理的誤謬
- 直接推理に關する誤謬
- 間接推理に關する誤謬
  - 定言的三段論法に關するもの
  - 假言的三段論法に關するもの
  - 選言的三段論法に關するもの

半論理的誤謬
- 結合及分解の誤謬
- 偶有性の誤謬
- 強調の誤謬
- 曖昧語の誤謬
- 複合的誤謬

資料的誤謬

不當假定の誤謬
- 論點竊取
- 循環論證

論旨相違の誤謬
- 論點變更
- 感情的
- 論點不足

論旨不足の誤謬
- 隱蔽の誤謬
- 前後即因果の誤謬
- 比喩の誤謬

◇論理に於ける資料上の誤謬に就いて述べよ。（廣島小本正）

附錄　教育問題集

第一　緒論

一　教育の意義を問ふ。（千葉小本正）

二　教育の效果につき記せ。（山梨尋准）

三　教育效果の制限につき述べよ。（長野尋准）

四　教育と環境整理の必要なる所似を述べよ。（岩手尋正）

五　「瓜の蔓に茄子は生らぬ」を如何に解するや。（兵庫尋正）

六　遺傳、環境、教育の相互關係を述べよ。（奈良尋准）

第二　目的論

七　教育の目的を決定する根據について論ぜよ。（京都小本正）

八　小學校教育の本旨を述べよ。（兵庫尋准）

九　一般的陶冶の意義並に職業的陶冶との關係を述べよ。（福井尋正）

一〇　小學校令第一條をあげ吾國小學校教育の目的を詳說せよ。（奈良小本正）

第三　養護論

一一　養護の任務につきて述べよ。（山形尋正）
一二　養護の消極的目的と積極的目的につき述べよ。（高知尋正）
一三　養護に於ける保護主義と鍛錬主義とにつき述べよ。（鳥取尋准）
一四　養護の主義につき述べよ。（鳥取尋准）
一五　養護に於ける保護と鍛錬とにつきて論ぜよ。（熊本尋准）
一六　養護の手段につき述べよ。（北海道尋正）
一七　養護の方法を問ふ。（東京小尋）
一八　養護實施上特に注意すべき事項をあげよ。（群馬尋准）
一九　虚弱兒童に對する特殊施設を述べよ。（大分尋正）
二〇　疲勞の意義及回復法を問ふ。（福島尋准）
二一　教授學習中に於ける養護上の注意を述べよ。（兵庫尋正）

第四　教授論

二二　教授の任務を說明せよ。（山梨尋正）
二三　教授の意義を明かにせよ。（奈良小本正）
二四　教授の究意目的を問ふ。（京都尋正）
二五　教授の實質的陶冶と形式的陶冶につき記せ。（千葉小准）

二六　教授目的の二方面につきて述べよ。（大阪尋正）
二七　教授の實質的形式的兩主義につき說明せよ。（京都尋正）
二八　教育的教授とは何か。（滋賀小本正）
二九　教材選擇の條件につき述べよ。（兵庫小本正）
三〇　教材選擇上細慮すべき事項を擧げよ。（栃木尋正）
三一　教材選擇の標準及特に顧慮すべき要件をあげる。（長野尋正）
三二　教科目排列の方法を述べよ。（長野尋正）
三三　教科目内容の排列法をあげ長短を比較せよ。（茨城小本正）
三四　教材聯絡統合の必要なる所似を述べよ。（京都小本正）
三五　教材統合法の種類を擧げ長短を論ぜよ。（福井小尋正）
三六　開化史的段階法とは何ぞや。（京都尋正）
三七　合科教授の目的及價値につき述べよ。（北海道小本正）
三八　教授細目の意義を述べ編成上注意すべき諸點を列擧せよ。（徳島尋正）
三九　日課表制定の原理を述べよ。（茨城尋准）
四〇　日課表の調制及活用につき述べよ。（山梨尋正）
四一　教授案作成上注意すべき要點をあげよ。（岡山尋正）
四二　國定教科書使用上の注意を述べよ。（和歌山尋准）

四三　學習の意義を問ふ。（福島等准）
四四　教授と學習の關係を明かにせよ。（廣島等正）
四五　學習上より作業の價値を述べよ。（東京府小准）
四六　教育と遊戯と作業の關係を述べよ。（東京府等正）
四七　模倣の意義及價値を述べよ。（宮崎等正）
四八　人の子を教育すると猫や犬に藝を教ゝるのとどんなに異るか。（福岡等正）
四九　學習上疑問の必要たる所似を述べよ。（山口等正）
五〇　學習上興味を重んずる所似を述べよ。（神奈川小本正）
五一　學習と努力との關係を述べよ。（千葉小本正）
五二　生活即教育を論評せよ。（神奈川小本正）
五三　「天は自ら助るものを助く」を教育上より説明せよ。（福岡小本正）
五四　教育上労作の重んずべき理由を述べよ。（福島等正）
五五　勤労作業の教育的價値を明にせよ。（秋田等正）
五六　教授の一般的順序を説明せよ。（宮城小准）
五七　教授の形式的順序を述べよ。（千葉等正）
五八　教授の各段階の任務を記せ。（福大等正）
五九　教授段階とは何かその適用上の注意を記せ。（長崎小准）

六〇　知的教授の段階を説明せよ。（宮崎等准）
六一　技能科教授の一般的順序を記せ。（京都等正）
六二　技能科教授上特に注意すべき點如何。（福島等正）
六三　教案とは何かその種類をあげて説明せよ。（千葉等正）
六四　教式の意義並にその種類を説明せよ。（茨城小准）
六五　教式の種類を挙げ適用上の注意を述べよ。（奈良小准）
六六　示範教式の意義並に其の適用上の注意を述べよ。（京都同等）
六七　教授上兒童の答辯の處理につき注意すべき點如何。（福島等正）
六八　教授に於ける發問の種類を説明せよ。（京都家政）
六九　學級教授の長短を述べよ。（神奈川等正）
七〇　共同學習の價値を述べよ。（鳥取等正）
七一　學級教授と個別指導との關係を問ふ。（山形等正）
七二　劣等兒取扱につきて述べよ。（福岡等正）
七三　プロジェクトメソッドとは何か。（宮城小准）
七四　ドルトン案につき述べよ。（新潟等准）
七五　成績考査方法並にこれが實施上の注意を述べよ。（高知等正）
七六　成績考査の目的を問ふ。（廣島等正）

七七　教育測定の意義及価値を述べよ。（鹿兒島等正）
七八　職業指導につき述べよ。（埼玉縣小本正）

第五　訓　練　論

七九　教授と訓練の異同を述べよ。（鳥取等正）
八〇　訓練の定義並にその任務。（奈良小本正）
八一　訓練の目的を述べよ。（熊本等正）
八二　訓練の必要なる所以を述べよ。（東京小本正）
八三　自治訓練を論ぜよ。（千葉小本正）
八四　學校生活に於ける自治訓練の方法を述べよ。（熊本等準）
八五　訓練の方針につき述べよ。（愛知等正）
八六　訓練上干渉主義と自由主義につき述べよ。（新潟小本正）
八七　訓練上抑制主義を批判せよ。（京都府等）
八八　個性の意義並に訓練との關係を述べよ。（青森等正）
八九　個性調査の目的如何。（宮崎縣等正）
九〇　素質の種類をあげ各の特徴を記せ。（京都市等）
九一　性格の意義を述べ且つ矯正の方法を述べよ。（三重等正）

九二　共同訓練と個別訓練の關係を述べよ。（三重等正）
九三　個別訓練の意義及びその方法につきて述べよ。（高知小本正）
九四　教育上に於ける家庭の任務を記せ。（兵庫小准）
九五　家庭生活の訓練上の價値を述べよ。（鳥取等准）
九六　學校生活が家庭生活に優れる點を述べよ。（京都産業）
九七　學校と家庭との協調上留意すべき點如何。（茨城等正小准）
九八　學校と社會との關係の必要を述べ特に注意すべき點をあげよ。（長野等正）
九九　訓練の機會につきて述べよ。（山形等准）
一〇〇　教授中に於て訓練上特に注意すべき事項を述べよ。（兵庫等正）
一〇一　遊戯の教育的價値を述べよ。（山口小准）
一〇二　遊戯指導上の要項をあげよ。（鳥取等准）
一〇三　作業の訓練上の效果を述べよ。（鳥取等正）
一〇四　訓練的作業の種類をあげて說明せよ。（京都等准）
一〇五　遊戯と作業との差異並にその關係を述べよ。（京都等正）
一〇六　訓練と教師の人格の必要かる所以を述べよ。（千葉等正）
一〇七　訓練上命令禁止について注意すべき點如何。（岐阜小本正）
一〇八　兒童を訓誡する場合如何なる注意を要するか。（京都市正）

一〇九　賞罰の意義及種類につきて述べよ。（富山尋正）

一一〇　「可愛くば五つ調へて三つほめ二つ叱りてよき人にせよ」を說明せよ。（靜岡尋正）

一一一　賞罰の教育的價値を述べよ。（富山尋正）

一一二　懲罰適用上の注意を述べよ。（青森尋正）

一一三　美育を論ぜよ。（京都小本正）

一一四　美的陶冶の方法如何。（佐賀小本正）

一一五　教授と訓練との關係を論ぜよ。（長崎小本正）

第七　教師の職務

一一六　小學校教員の任務を記せ。（東京小准）

一一七　教育者の必須條件を述べよ。（長崎尋准）

第八　社會教育

一一八　社會教育の施設につき述べよ。（熊本小本正）

一一九　全村教育の必要を論ぜよ。（埼玉小本正）

第九　現代教育思潮

一二〇　現代教育思潮の主なるものを列擧せよ。（大阪小本正）

一二一　現代教育思潮の特徴を述べよ。（京都小本正）

一二二　最近教育教授の思潮につきて概說し之れに對する態度を述べよ。（埼玉小本正）

一二三　個性の意義を明かにし個性教育に論及せよ。（佐賀小本正）

一二四　鄉土教育とは何ぞや。（兵庫小本正）

一二五　鄉土の教育的意義を論ぜよ。（岐阜小本正）

一二六　協同社會學校とは何か。（佐賀小本正）

一二七　勤勞學校につき知れる所を記せ。（福島小本正）

教育史

一　本邦一貫の教育思想を述べ儒佛兩教の影響を述べよ。（福井小本正）

二　本邦平安時代の教育を概評せよ。（山口小本正）

三　明治五年八月發布されたる學制の大要を述べよ。（岐阜小本正）

四　左に答へよ。

イ、モイマン　ロ、ザルツマン　ハ、シュライヘルマヘル。（岐阜小本正）

五　文化教育學の思想を述べよ。（廣島小本正）

六　吉田松陰の教育法につき知れる處を記せ。（和歌山小本正）

七　ルソーの教育説を批判せよ。（和歌山小本正）

八　左に答へよ。（和歌山小本正）

イ、和俗童子訓　ロ、實語教　ハ、隱者の夕暮　ニ、世界國會

九　フイヒテの教育説につき記せ。（愛知小本正）

一〇　フレーベルの教育説と彼が教育實際に齎したる功績を述べよ。（京都小本正）

一一　ヘルバルトは教育の目的及教授を如何に見たか。（兵庫小本正）

一二　スペンサーの教育説を述べよ。（埼玉小本正）

一三　教育史上に於ける自由教育思潮を述べよ。（東京小本正）

論理學

一　充足理由の原理を述べよ。（新潟小本正）

二　思考の本質を述べよ。（鳥取小本正）

三　概念の構成を明かにせよ。（京都小本正）

四　概念の種類を問ふ。（岡山小本正）

五　換位法と換質法を説明せよ。（茨城小本正）

六　選言的推理とは如何なるものを云ふか。（東京小本正）

七　歸納推理と歸納法との關係を説明すべし。（山口小本正）

八　三段論法の前提に於て周延せられざる概念を結論に於て周延せしむることは何故不當なりや。（東京小本正）

九　科學分類の原理を評説せよ。（東京小本正）

一〇　論證の一般的法則をあげる。（岐阜小本正）

一一　前進的歸納法にありては最初の前提のみ特稱最後の前提のみ否定なることを得る理由如何。（廣島小本正）

一二　正しき選言的三段論法の例をあげよ。（和歌山小本正）

一三　比論とは如何なる推理法か又この推理法をなし得る根據は奈邊にあるか。（京都小本正）

學校管理法

第一　教育行政

一　教育行政の性質を説明せよ。（和歌山尋正）

二　教育行政機關を略述せよ。（茨城小本正）

三　本邦教育機關の概要を説明せよ。（長崎小本正）

四　學務委員の職分を述べよ。（岐阜小本正）

第二　小學校の範理

五　小學校の種類をあげよ。（京城帝正）

六　尋常小學校設置の義務について述べよ。（東京小本正）

七　尋常小學校設置に關する特別の場合をあげよ。（福岡帝正）

八　學級の意義を述べその編成上の種類を說明せよ。（岐阜小本正）

九　小學校に於ける學級編制法の種類をあげて說明せよ。（福岡帝正）

一〇　二部敎授を實施すべき場合及び其の長短につきて述べよ。（沖繩帝正）

一一　學級編制の基礎的條件を明かにせよ。（佐賀帝正）

一二　敎員の配置につきて述べよ。（鹿兒島小本正）

一三　敎員增任法の種類をあげ其の得失を論ぜよ。（新潟帝正）

一四　學級經營の方法を述べよ。（大分小本正）

一五　補習敎育の必要につき述べよ。（福島縣小本正）

一六　小學校に如何なる敎育的設備を要するや。（京城帝正）

一七　學校園の敎育的價値及經營の原理につき說明せよ。（兵庫帝正）

一八　我國義務敎育につき述べよ。（廣島小本正）

一九　學齡兒童及就學の始期につき說明せよ。（鹿兒島帝准）

二〇　學齡兒童保護者の義務を記せ。（埼玉小本正）

二一　就學の猶豫及免除につきて述べよ。（長野小本正）

二二　市町村立尋常小學校長の就學事務につき述べよ。（埼玉小本正）

二三　就學に關する學齡兒童保護者の事務を記せ。（福岡帝正）

二四　小學校敎員の種類をあげよ。（青森帝准）

二五　小學校敎員の服務及職務につきて述べよ。（和歌山帝正）

二六　小學校令施行規則に規定されたる小學校長及敎員の服務を述べよ。（福島小本正）

二七　小學校敎員の權限を問ふ。（大阪帝正）

二八　小學校敎員の懲戒處分につき述べよ。（佐賀帝正）

二九　義務敎育費國庫負擔法につきて述べよ。（佐賀帝正）

第三　小學校經營の實際

三〇　課外讀物の價値及び其の注意事項を述べよ。（新潟帝正）

三一　校訓の性質及制定上の注意を述べよ。（岩手帝正）

三二　儀式に於ける順序を記せ。（山形帝正）

三三　學級の價値及其の行事方法につき述べよ。（德島小本正）

三四　校務分掌につき記せ。（長野帝正）

第四　學校衛生

三五　學校衞生の意義及必要なる所以を述べよ。（石川尋正）
三六　學校衞生の範圍を述べよ。（鳥取小本正）
三七　教授衛生の一般を略説せよ。（愛知尋正）
三八　遠足の價値及び方法につき述べよ。（大阪尋正）
三九　休日殖民につき記せ。（愛知小准）
四〇　學校病につき説明しその主なるものをあげよ。（新潟小本正）

心理學問題集

第一　總　論

一　教育に於ける心理學の效果につき述べよ。（青森小本正）
二　心理學の種類をあげよ。（島根尋正）
三　兒童心身發達の概況を述べよ。（京都尋正）
四　神經系統につき略述せよ。（大阪尋正）
五　左の意義を問ふ。
　イ、意識　ロ、反意識。（山形尋正）
六　注意の意義及種類をあげて説明せよ。（福岡小本正）

七　注意を喚起せしむる條件をあげよ。（埼玉小本正）
八　注意の發達過程を明かにし教育との關係を述べよ。（神奈川小本正）
九　兒童の注意は如何にして集中し得べきか。（群馬小本正）
一〇　教授の際兒童をして注意を持續せしむるは如何にすべきか。（神奈川小本正）

第二　認　識

一一　感覺の意義及び其の種類をあげ略述せよ。（岡山小本正）
一二　殘像につき知れる處を記せ。（京都尋正）
一三　有機感覺につき知る所を記せ。（岐阜小本正）
一四　運動感覺を説明せよ。（愛知小本正）
一五　感覺の教育について記せ。（長崎小本正）
一六　兒童の感覺につき略述し教育上の注意に及べ。（千葉小本正）
一七　知覺作用を説明せよ。（埼玉尋正）
一八　距離の知覺を生ずる條件を記せ。（大阪小本正）
一九　左の心理作用の異同を問ふ。（京都尋正）
　イ、錯覺　ロ、幻覺
二〇　兒童の知覺につき述べよ。（東京尋正）

二一　類化作用を例をあげて說明せよ。（愛知小本正）
二二　觀念につき說明せよ。（廣島小本正）
二三　表象型式の種類を擧げ教育上の注意を述べよ。（愛知小本正）
二四　觀念聯合の意義及法則につき說明せよ。（長野尋正）
二五　聯合を强固ならしめる條件を述べよ。（岐阜尋正）
二六　記憶作用を說明せよ。（福岡小本正）
二七　兒童の記憶作用の特性を述べ教育上の注意に及べ。（北海道尋正）
二八　想像の種類を擧げて教育上注意すべき要項を記せ。（青森小本正）
二九　思惟作用の本質を明かにせよ。（福岡小本正）
三〇　思惟の法則につきて述べよ。（島根縣小本正）
三一　概念の意義及種類を問ふ。（三重尋正）
三二　概念と觀念との差異を說明せよ。（新潟尋正）
三三　判斷の本質を說明すべし。（京都小本正）
三四　歸納推理につき述べよ。（北海道小本正）
三五　間接推理の種類につき述べよ。（和歌山小本正）
三六　歸納推理と演繹推理との意義並にその關係を述べよ。（鹿兒島小本正）
三七　兒童の推理の特徴を擧げて教育上の注意を述べよ。（岐阜尋正）

第三　感　情

三八　感情教育を問ふ。（石川小本正）
三九　感情の三方面とは何か。（山形小本正）
四〇　例を擧げ情緒を說明せよ。（京都府尋正）
四一　情操の意義及種類につき說明せよ。（靜岡小本正）
四二　情緒と情操の差異を問ふ。（福岡小本正）
四三　情操と訓練の關係を述べよ。（京都小本正）

第四　意　志

四四　意志作用の本質並にその發達につきて述べよ。（熊本小本正）
四五　反射運動とは何ぞ例を擧げて說明せよ。（大阪尋正）
四六　試行錯誤法の意義を明かにせよ。（大阪小本正）
四七　本能發現の特性を擧げよ。（茨城縣小本正）
四八　本能と遊戲の關係を說べよ。（愛知縣小本正）
四九　本能の教育と注意すべき諸點を述べよ。（北海道小本正）
五〇　執意の意義並にその過程を說明せよ。（德島尋正）

五一　意志の教育上特に注意すべき條項を擧げよ。（岐阜尋正）
五二　兒童意志の特徴を擧げその教育方法を論ぜよ。（山梨小本正）

第五　學　習

五三　作業曲線とは何ぞや。（岐阜小本正）
五四　學習作業の發達の道程を說明せよ。（滋賀尋正）
五五　學習の心理につき述べよ。（廣島小本正）
五六　疲勞の意義及び疲勞の進む段階を說明せよ。（鳥取小本正）
五七　疲勞とその回復につきて述べよ。（大阪府小本正又は京都小本正）

第六　精神的素質

五八　精神的素質とは何ぞや。（新潟尋正）
五九　知能率及びその算出法につき述べよ。（京都小本正）
六〇　氣質の種類を擧げその特徴を述べよ。（廣島尋准）
六一　神經質の兒童及其の訓練の方法を述べよ。（高知尋正）

各科教授法

第一　修　身　科

一　小學校に於ける修身科の本質を述べよ。（群馬小本正）
二　修身教授の要旨を說明せよ。（京都尋准）
三　修身科に於ける德性涵養と實踐指導の意義を說明せよ。（鳥取尋正）
四　修身教材を其の性質に依りて分類せよ。（德島尋正）
五　德目主義と人物主義の差異を論評せよ。（大阪小本正）
六　修身教授に於て童話の取扱上の注意を述べよ。（山形尋准）
七　例話の價値種類及取扱上の注意を記せ。（山形尋正）
八　格言の意義及びその指導の要領を述べよ。（福岡尋正）
九　兒童の道德意識の發達につきて述べ指導上の注意に及べ。（愛知尋正）
一〇　修身科教授上の注意を詳說せよ。（奈良小本正）

第二　國　語　科

一一　國語教授の實質的方面とは何か。（鹿兒島尋准）

一二　內臟內語につき知れる處を記せ。（群馬小本正）
一三　音讀と目讀とを比較し各の價値を述べよ。（山梨等准）
一四　讀み方教授上の主義を說明し之を批評せよ。（鹿兒島小本正）
一五　初步の讀方教授の方法を概說せよ。（愛知等正）
一六　範語法とは何ぞや。（福井等准）
一七　文章學習の指導につき述べよ。（埼玉小本正）
一八　國語教授上に於けるセンテンス、メソッドとは何か。（福岡等正）
一九　國語科に於ける韻文指導の要領を述べよ。（和歌山小本正）
二〇　讀み方教授に於ける諸注意を述べよ。（神奈川等正）
二一　綴り方教材選擇上の要件をあげよ。（京都等正）
二二　綴方批正の方法を述べよ。（臺灣等正）

第三　算術科

二三　算術教授の目的を問ふ。（石川等准）
二四　算術教授に於て思考を確實ならしめる條件をあげよ。（群馬等正）
二五　初步の算術教授に於ける實物計算につきて述べよ。（山口等正）
二六　暗算の價値及其の指導上の注意を述べよ。（福岡等正）

二七　應用問題の取扱上の注意を述べよ。（和歌山小本正）

第四　國史科

二八　國史科教授の要旨を述べよ。（千葉等准）
二九　小學校に於ける國史教授の目的を述べよ。（大阪小本正）
三〇　國史教授の要項をあげよ。（群馬小本正）
三一　年代表取扱上注意すべき點如何。（沖繩等正）

第五　地理科

三二　小學校に於ける地理科教授の要旨を述べよ。（東京小准）
三三　地理科教授の目的を述べよ。（石川等正）
三四　地理科教授上の主義をあげて論評せよ。（和歌山小本正）
三五　鄉土教授の目的を問ふ。（山口等准）
三六　地理科教授上特に留意すべき點如何。（京都小本正）
三七　小學校に於ける地理教授に必要なる教具をあげて說明せよ。（山形等正）

第六　理科

三八　小學校に於ける理科教授の要旨を述べよ。（京都小准）

三九　理科の教育的價値を問ふ。（東京尋正）

四〇　理科教授に於ける形式陶冶を説明せよ。（崎玉小本正）

四一　理科教材の選擇標準を述べよ。（大阪小准）

四二　理科教授上特に注意すべき諸點をあげよ。（長崎小本正）

	願書提出期限	施行月	受驗料 准教員（圓）	受驗料 正教員（圓）	提出所所在地	師範學校所在地
石川	八月上旬	十	一、五	二	金澤市廣坂通	男子師範（金澤市彌生町）女子師範（金澤市廣坂町）
岩手	七月上旬	八	一	二	盛岡市內丸	男子師範（盛岡市上田）女子師範（盛岡市內丸）
茨城	三月下旬	五 六	一	二	水戸市北三ノ九	男子師範（水戸市大字上市）女子師範（水戸市大字上市）
新潟	二月下旬 七月下旬	四 九	二	四	新潟市學校町	新潟師範（新潟市旭町通）高田師範（高田市西城町）女子師範（長岡市東神田町）
北海道	三月下旬 八月下旬	五 十	二	三	札幌市北二條	札幌師範（札幌市南一條西十五丁目）函館師範（函館市外大字龜田村）旭川師範（旭川市南三條南一號）
東京	二月下旬	五	二	三	麴町區丸の內	青山師範（世田谷區下馬）豐島師範（豐島區池袋）女子師範（小石川區竹早町）
栃木	九月上旬	十	一	二	宇都宮市塙田町	男子師範（河內郡國本村）女子師範（宇都宮市戸際町）
富山	八月下旬	九	一	二	富山市總曲輪	男子師範（富山市西日地方町）女子師範（上新川郡堀川町）
鳥取	八月下旬	十	二	三	鳥取市東町	男子師範（鳥取市東町）女子師範（八頭郡國中村）
德島	九月上旬	十	二	三	德島市富田浦町	男子師範（德島市常三島町）女子師範（德島市德島町）
千葉	四月中旬 九月中旬	五 十	二	三	千葉市寒川	男子師範（千葉市）女子師範（千葉市）
朝鮮	八月下旬	十	一	一	京城府光化門通	京城師範（京城府黃金町）大邱師範（大邱府大鳳町）平壤師範（平壤府外東大院里）
大阪	四月上旬 九月上旬	五 十	一	二	東區大手前	天王寺師範（天王子區南河堀町）池田師範（豐能郡池田町）女子師範（住吉區平野流町）

岡山	四月上旬	五	一、五	三	岡山市石關町
大分	五月中旬	六	三	四	大分市荷揚町
沖縄	四月上旬 九月上旬	五 十	〇、五	一	那覇市美榮橋町
和歌山	五月中旬	六	一、五	二	和歌山市西汀町
鹿兒島	四月中旬 十月中旬	十一	二	三	鹿兒島市山下町
神奈川	八月下旬	九	一、五	二	横濱市
樺太	六月上旬	八	二	三	豐原市
香川	八月下旬	十	二	三	高松市內町
臺灣	四月下旬	八	三	三	臺北市文武町
長野	六月末日	八	一、五	三	長野市妻科
長崎	三月中旬 八月中旬	十五	二	三	長崎市外
奈良	四月下旬 九月下旬	五自十 十他二	二、五 三、〇	三	奈良市登大路町
熊本	四月中旬 八月下旬	五他十 自一	二、五 一、〇	二、五	熊本市 新南千反畑
群馬	六月中旬 十月中旬	八自十 二他二	一、五 二、〇	三、〇	前橋市曲輪町
山口	四月中旬 九月下旬	十五	三	三	山口市厳島

岡山	男子師範（岡山市門田）女子師範（岡山市西中山下）
大分	男子師範（大分市駄原）女子師範（大分市長濱町）
沖縄	男子師範（首里市當藏町）女子師範（島尻郡眞和志村）
和歌山	男子師範（和歌山市眞砂町）女子師範（海草郡日方町）
鹿兒島	〔第一師範（鹿兒島市竹町）第二師範（日置郡西市來村） 女子師範（鹿兒島市山下町）〕
神奈川	男子師範（鎌倉郡鎌倉町）女子師範（橫濱市中區根岸町）
樺太	教員養成所（大泊郡大泊町）
香川	男子師範（高松市幸町）女子師範（綾歌部坂出町）
臺灣	〔臺北第一師範（臺北町文武町）臺北第二師範（臺北市下內 （浦）臺中師範（臺中市川端町）臺南師範（臺南市桶盤淺七）〕
長野	男子師範（長野市西長野町）女子師範（松本市元原町）
長崎	男子師範（東彼杵郡大村町）女子師範（長崎市櫻馬場町）
奈良	男子師範（奇良市登大路町）女子師範（奇良市北魚屋町）
熊本	〔第一師範（熊本市京町本町）第二師範（飽託郡健軍村） 女子師範（熊本市內坪內町）〕
群馬	男子師範（前橋市淸王寺町）女子（前橋市淸王寺町）
山口	男女師範（山口市）女子師範（熊毛郡室積町）

山形	四月下旬 九月下旬	六 十	二	三	山形市
山梨	三月下旬	五	一、五	二、五	甲府市橘町
福井	三月上旬 八月上旬	四 九	二	三	福井市城町
福島	二月中旬 七月中旬	四 十	二、五		福島市杉妻町
福岡	三月中旬 十月中旬	十一五	一	自一 他二	福岡市天神町
高知	三月下旬	五	一	二	高知市帶屋町
秋田	六月末日	八	二	三	秋田市土手長町
青森	六月末日	八	一	二	青森市大字大野
愛知	二月下旬	五	一	二	名古屋市中區 新榮町
埼玉	五月上旬 十月上旬	六 二	自一 他二	自二 他四	浦和市
佐賀	三月下旬 十月下旬	十五 二	二	三	佐賀市赤松町
岐阜	六月下旬 十二月下旬	八 一、五	三	三	岐阜市司町
京都	四月下旬 九月下旬	五 十	一	二	上京區下立賣通
宮崎	四月下旬 九月下旬	十六 十一	二	三	宮崎市別府町

山形	男子師範（山形市旅籠）女子師範（山形市香澄町）
山梨	男子師範（西山梨郡相川村）女子師範（東山梨郡加納岩町）
福井	男子師範（福井市豐島市町）女子師範（今立郡舟津村）
福島	男子師範（福島市腰の濱）女子師範（福島市舟場町）
福岡	〔福岡師範（福岡市荒戶町）小倉師範（小倉市富野） 女子師範（福岡市鳥飼）〕
高知	男子師範（高知市小高坂）女子師範（高知市潮江）
秋田	男子師範（南秋田郡旭川）女子師範（秋田市東根小屋町）
青森	男子師範（青森市造道）女子師範（青森市浦町）
愛知	〔男子師範（岡崎市六共町）女子師範（名古屋市西區北押 切町）愛知縣第一師範（名古屋市東區東芳野町）〕
埼玉	男子師範（浦和市）女子師範（北足立郡六辻村）
佐賀	男子師範（佐賀市赤松町）女子師範（佐賀市赤松町）
岐阜	男子師範（岐阜市長良）女子師範（稻葉郡加納町）
京都	男子師範（上京區小山大野町）女子師範（伏見區桃山町）
宮崎	男子師範（宮崎市西丸山町）女子師範（宮崎市西丸山町）

宮城	十月中旬	十一	一	三	仙臺市勾當臺通 男子師範（仙臺市北七番）女子師範（仙臺市中島町）
三重	七月上旬	八	一	二	津市中茶屋町 男子師範（津市丸之內殿町）女子師範（鈴鹿郡龜山町）
島根	三月下旬	五	一	二	松江市殿町 男子師範（松江市外中原町）女子師範（羽賀郡濱田町）
靜岡	四月上旬 九月上旬	五 十	二、五	二、五	靜岡市追手町 {靜岡師範（靜岡市追手町）濱松師範（濱松市名殘町） 女子師範（安倍郡千代田村）
滋賀	八月中旬	九	一	二	大津市東浦 男子師範（滋賀郡膳所町）女子師範（大津市東浦）
愛媛	五月中旬 八月中旬	七 十	二	三	松山市一番町 男子師範（松山市木原町）女子師範（溫泉郡三浦濱町）
兵庫	三月上旬 八月上旬	五 十	二	三	神戶市下山手通 {姬路師範（姬路市伊傳居）御影師範（武庫郡御影町） 女子師範（明石市山下町）
廣島	二月末日 八月末日	四 十	二	三	廣島市水立町 男子師範（廣島市皆實町）女子師範（御調郡三原町）

年に依り多少變更ある府縣があるから尙確實なる處は其の筋へ御照會下さい。

（受驗科中　自とあるは自縣受驗者他とあるは他縣受驗者なり）

小學校教員檢定受驗科目表

科目＼種別	尋常小學校准教員	尋常小學校本科正教員	小學校准教員
修身	道德の大要	道德の要旨	道德の要旨
教育	教育教授法大要	教育、教授法、管理法大要	教育教授法
國語	小學校國語讀本及び作文と習字	普通文及小學校國語讀本、作文習字	普通文及小學校用語讀本、講讀、作文、習字
算術	整數、分數、小數、諸等數、比例、步合算	整數、分數、小數、諸等數、步合算	整數、分數、小數、諸等數、步合算、比例、求積、代數及幾何の初步
歷史	國史大要	國史大要	國史大要
地理	日本地理、外國地理大要	日本地理、外國地理大要	日本地理、外國地理大要
理科	博物、物理、化學大要	博物、物理、化學大要	博物、物理、化學大要
圖畫	自在畫簡易なるもの）	自在畫	自在畫及簡易ナル幾何畫
音樂	單音唱歌	唱歌、ピアノ又はオルガン	唱歌、ピアノ又はオルガン
體操	體操、教練、遊戲、競技	體操、教練、遊戲、競技	體操、教練、遊戲、競技
裁縫		通常衣類の裁ち方、縫方、繕ひ方	通常衣類の裁ち方、縫ひ方、繕ひ方
手工			大要

農業 商業	大要 大要

小學校本科正教員は、各府縣師範學校に使用せる教科書に依る。

右表の中裁縫は女子に限ることは勿論、農業商業は男子に限り、手工、圖畫、音樂と共に一科目乃至數科目省くことがある。尚專科正教員の受驗科目は教育及其の科と教授法である。

附錄

地方學事通則

大正三年三月二十八日法律第十三號

第一條　市町村ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ教育事務ノ爲之ヲ學區ニ分畫スルコトヲ得

市ノ學區ニ關シテハ市制第百四十五條乃至第百四十七條及市ノ財產營造物ニ關スル規定ヲ町村ノ學區ニ關シテハ町村制第百二十五條乃至第百二十七條及町村ノ財產營造物ニ關スル規定ヲ準用ス但シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二條　學區ヵ市制第六條ノ市ノ區市制第百四十四條ノ市ノ一部又ハ町村制第百二十四條ノ町村ノ一部ト區域ヲ同シクスル場合ニ於テ其ノ區又ハ一部ニ區會又ハ區總會ノ設アルトキハ學區ニ關スル事件ハ其ノ區會又ハ區總會之ヲ議決ス

第三條　學區ニ於テ專ラ使用スル學校幼稚園ニ關スル費用ハ其ノ學區內ニ於テ市稅町村稅ヲ納ムル義務アル者之ヲ負擔ス財產ヨリ生スル收入又ハ學校幼稚園ニ屬スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス監督官廳ノ許可ヲ受ケ市町村ニ於テ其ノ費用ノ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第四條　學區ヲ廢止セムトスル場合ニ於テ學區ノ財產ノ處分ニ付テハ關係アル市町村會及學區ノ區會又ハ區總會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

前項ノ府縣知事ノ處分ニ不服アル市町村又ハ學區ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五條　市町村又ハ其ノ學區ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ他ノ市町村又ハ學區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

前項ノ委託ニ對スル報償其ノ他必要ノ事項ニ付關係市町村又ハ學區ノ協議整ハサルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

前條第二項ノ規定ハ前項ノ處分ニ付之ヲ準用ス

第六條　市町村ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

學區ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條　教育事業ノ爲ニ設クル市町村組合町村組合ハ之ヲ市町村學校組合町村學校組合ト稱ス

市町村學校組合ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條　本法中市及其ノ學區ニ關スル規定ハ市町村組合及其ノ學區ニ町村及其ノ學區ニ關スル規定ハ町村組合及其ノ學區ニ之ヲ準用ス

第九條　府縣郡ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校圖書館ノ爲基本財產又ハ積立金ヲ設クルコトヲ得

基本財產及積立金ノ管理及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　府縣制郡制市制町村制ニ規定シタル內務大臣ノ職務ハ教育ニ關スル事項ニ付テハ內務大臣及文部大臣ニ屬ス

附　則

本法ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニハ之ヲ施行セス

從前ノ規定ニ依リ教育事務ノ爲分畫セラレタル市町村及町村學校組合ノ區ハ本法ニ依ル學區、從前ノ規定ニ依リ設ケタル町村學校組合ハ本法ニ依ル町村學校組合ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ設ケタル市町村ノ基本財產及積立金ハ市制町村制ニ依リ設ケタルモノト看做ス

小學校令

明治三十三年八月十八日勅令第三百四十四號

第一章　總則

第一條　小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎竝其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條　小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス

市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ私人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

第三條　尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス但シ文部大臣ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　町村組合ニシテ其ノ町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ之ヲ一町村ト同視ス

第五條　小學校ニ類スル各種學校ノ規定ニ關シテ本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外文部大臣之ヲ定ム

第二章　設置

第六條　市町村ハ其ノ區域內ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置スヘシ

第七條　府縣知事ハ一町村ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘスト認メタルトキハ其ノ町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムヘシ

第八條　府縣知事ハ一町村ニ於テ就學セシムヘキ兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認メタルト

キ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ

一　其ノ町村テシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシムルコト

二　其ノ町村テシテ就學セシムヘキ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコト

府縣知事ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ其ノ町村ノ尋常小學校ニ對シ適度ノ通學路程内ニ在ラスト認メタルトキハ亦前項ノ例ニ依ルヘシ

府縣知事ハ町村學校組合ノ一部ニシテ前項ニ準スヘキ事情アリト認メタルトキハ第一項第二號ノ例ニ準スヘシ

第八條ノ二　府縣知事ハ町村、町村學校組合又ハ其ノ一部ニシテ前條各項ノ一ニ該當スル事情アル場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ市又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

府縣知事ハ市ノ一部ニシテ就學セシムヘキ兒童ノ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキ又ハ適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認メタルトキハ其ノ兒童ノ全部若ハ一部ノ教育事務ヲ他ノ市町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ニ委託セシムルコトヲ得

第九條　市町村立尋常小學校ノ校數竝位置ハ府縣知事ニ於テ市町村又ハ町村學校組合ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

第十條　第七條又ハ第八條ニ依リ府縣知事ニ於テ町村學校組合ヲ設ケシメムトスルトキハ組合規定ヲ定メ關係町村ノ意見ヲ聞クヘシ組合規約ヲ變更シ組合町村ノ數ヲ增減シ又ハ組合ヲ解カシメムトスルトキ亦同シ第八條又ハ第八條ノ二ニ依リ府縣知事ニ於テ兒童教育事務ヲ委託セシメ又ハ其ノ委託ヲ止メシメムトスルトキハ關係市町村、町村學校組合及區ノ意見ヲ聞クヘシ

第十一條　府縣知事ハ市町村若ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小事校數校アルトキ、兒童教育事務ノ委託テ要スル場所數個所アルトキ又ハ其ノ設置スヘキ尋常小學校ト兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所トアルトキハ市町村若ハ町村學校組合テ分置シ其ノ一區若ハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル費用ノ負擔又ハ兒童教育事務委託ノ爲其ノ使用スヘキ小學校テ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係市町村、町村學校組合及區ノ意見テ聞クヘシ其ノ之ヲ止メムトスルトキ亦同シ

第十二條　府縣知事ハ第七條及第八條第一項ノ事情アルモ同條及第五十三條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村テシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務テ免レシムルコトヲ得

府縣知事ハ第八條第二項又ハ第三項ノ事情アルモ同項及第五十三條ニ依ルコトヲ得スト認メタルトキハ其ノ町村若ハ町村學校組合ヲシテ其ノ一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務テ免レシムルコトヲ得

第十三條　（削除）

第十四條　市町村ハ市町村又ハ其ノ學區ノ負擔ヲ以テ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

市町村又ハ町村ハ其ノ協議ニ依リ市町村學校組合又ハ町村學校組合ヲ設ケ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

第十五條　市町村立高等小學校ノ設置及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　私立小學校ノ設置及廢止ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　前三條ノ規定ハ小學校ニ類スル各種學校ニ之ヲ小學校ニ附設スルコトヲ得

小學校ニ類スル各種學校ハ之ヲ小學校ニ附設スルコト

トヲ得

第三章　教科及編制

第十八條　尋常小學校ノ修業年限ハ六箇年トス
高等小學校ノ修業年限ハ二箇年トス但シ延長シテ三箇年ト爲スコトヲ得

第十九條　尋常小學校ノ教科目ハ修身。國語、算術、國史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ
土地ノ情況ニ依リ手工ヲ加フルコトヲ得

第二十條　高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、圖畫、手工、唱歌、體操、實業（農業、工業、商業ノ一科目又ハ數科目）トシ女兒ノ爲ニハ家事、裁縫ヲ加フ
土地ノ情況ニ依リ前項教科目ノ外、外國語其ノ他必要ナル教科目ヲ加フルコトヲ得
前項ノ教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得第三學年ニ於ケル圖畫唱歌ニ付亦同シ
手工ハ實業ニ於テ工業ヲ學習スル兒童ニハ之ヲ課セサルコトヲ得
實業ノ數科目ヲ置キタル場合ニハ兒童ヲシテ其ノ一科目ヲ選擇セシム
實業ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二十一條　小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得
補習科ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第二十二條　小學校ノ教科目中兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ兒童ニ課セサルコトヲ得

第二十三條　小學校ノ教科目ヲ加除セムトスルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

補習科ヲ設置シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ高等小學校ノ修業年限ヲ延長セムトスルトキハ市町村立小學校ニ在

リテハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條　小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ
前項ノ圖書同一ノ教科目ニ關シ數種アルトキハ其ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ採定ス
文部大臣ハ第一項ノ規定ニ拘ラス修身、國史、地理ノ教科用圖書及國語讀本ヲ除キ其ノ他ノ教科用圖書ニ限リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ府縣知事ヲシテ之ヲ採定セシムルコトヲ得
補習科ノ教科用圖書ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十七條　小學校ノ休業日ハ日曜日ヲ除クノ外每年九十日ヲ超ユルコトヲ得ス但補習科ハ此ノ限ニ在ラス
特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ前項ノ日數ヲ增加スルコトヲ得
傳染病豫防ノ爲必要アルトキ其ノ他非常變災アルトキハ府縣知事ニ於テ臨時小學校ノ閉鎖ヲ命スヘシ其ノ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ市町村立小學校ニ在リテハ管理者、私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ之ヲ閉鎖スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ府縣知事ニ報告スヘシ

第二十八條　小學校教則及小學校編制ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四章　設備

第二十九條　小學校ニ於テハ校舍、校地、校具及體操場ヲ備フヘシ

第三十條　校舍、校地、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ教育兵事產業衞生慈善等ノ目的ノ爲特別ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　小學校ノ設備ニ關スル規程ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第五章　就學

第三十二條　兒童滿六歲ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル日以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス

學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其ノ終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ

學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ其ノ後見人ヲ謂フ

第三十三條　學齡兒童痴癲白痴又ハ不具廢疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ府縣知事之ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十四條　第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免セラレタル區域內ノ學齡兒童保護者ハ其ノ義務ヲ免除セラレタルモノトス

第三十五條　尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其ノ雇傭ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ス

第三十六條　學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムヘキ時期ニ於テ就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得コノ場合ニ於テハ直ニ府縣知事ニ報告スヘシ

市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認タタルトキ亦前二項ニ準ス

第三十四條　第十二條ニ依リ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免セラレタル區域內ノ學齡兒童保護者ハ其ノ義務ヲ免除セラレタルモノトス

第三十五條　尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其ノ雇傭ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ス

第三十六條　學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得

官立若ハ府縣立ノ學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分、高等學校若ハ中學校ノ豫科又ハ盲學校若ハ聾唖學校ノ初等部ハ兒童就學ニ關シテハ市町村立尋常小學校ト同視ス

第三十七條　兒童ノ年齡就學ノ始期ニ達セサル者ハ之ヲ小學校ニ入學セシムルコトヲ得ス

第三十八條　小學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

第六章　職員

第三十九條　小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中修身、國語、算術、國史、地理、理科以外ノ教科目ニシテ文部大臣ノ定ムル一科目又ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス

本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

第四十條　小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ

免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

第四十一條　免許狀ヲ受クルニハ師範學校若ハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ小學校教員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ檢定ヲ施行スルカ爲府縣ニ小學校教員檢定委員會ヲ置ク

免許狀及小學校教員檢定委員會ノ組織權限其ノ他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十二條　特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ代用スルコトヲ得

代用教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十三條　市町村立學小校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ衆ネシムヘシ

第四十四條　市立小學校長及教員ノ任用ハ市長又ハ市町村學校組合管理者ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

町村立小學校長及教員ノ任用竝市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第四十五條　市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與竝其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第四十六條　小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十七條　小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四十八條　市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ內外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ業務ヲ停止ス

第四十九條　小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第五十條　縣知事ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七章　費用負擔及授業料

第五十一條　市町村立小學校ノ設置ニ關スル費用ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ負擔トス其ノ概目左ノ如シ

一　設備及其ノ維持ノ費用

二　職員ノ俸給、旅費、其ノ他諸給與

三　校費

兒童教育事務委託ニ關スル費用ハ市町村、町村學校組合又ハ其ノ學區ノ負擔トス

第五十二條　府縣知事ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ又ハ兒童教育事務ノ委託ヲ要スル場所アルトキハ其ノ學校組合內ノ某町村ヲシテ其ノ數校中ノ一校若ハ數校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ニ關スル費用ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シ又ハ之ヲ止メムトスルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞クヘシ

第五十三條　府縣知事ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ府縣ハ町村又ハ町村學校組合ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

一　町村ニシテ第七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得サルトキ

二　町村學校組合ノ資力尋常小學校設置ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其ノ學校組合費ノ分擔ニ堪ヘサルトキ

三　町村又ハ町村學校組合ノ資力兒童教育事務委託ニ關スル費用ノ負擔ニ堪ヘサルトキ

前項ノ認定ニ於テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クヘシ

第五十五條　區長及其ノ代理者竝學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ノ負擔トス但シ區長及其ノ代理者竝學區ノ學務委員ニ關スル費用ハ市町村會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ學區ノ負擔ト爲スコトヲ得

第五十六條　小學校教員檢定及免許狀ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第五十七條　市町村ハ尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徴收スルコトヲ得ス但シ補習科ハ此ノ限ニ在ラス
特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ市町村立尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徴收スルコトヲ得

第五十八條　市町村立小學校ノ授業料ハ市町村町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ收入トス

第五十九條　授業料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八章　管理及監督

第六十條　市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス

第六十一條　府縣知事ハ市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ヲシテ市町村長又ハ町村學校組合管理者ノ指揮命令ヲ受ケテ學區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第六十二條　市町村ハ教育事務ノ爲市制第八十三條町村制第六十九條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但シ市會町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

市町村學校組合又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村又ハ町村學校組合ハ教育事務ノ爲條例ノ規定ニ依リ其ノ學區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘシ

委員中教員ヨリ出ツル者ハ市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者之ヲ任免ス

第六十三條　學務委員ノ職務其ノ他學務委員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十五條　市町村立小學校長及教員ノ執行スル國ノ教育事務ハ府縣知事之ヲ監督ス

第六十六條　私立小學校ハ府縣知事之ヲ監督ス

〔附則第六十七條以下はこれを略する〕。

小學校令施行規則

明治三三年八月二十一日
文部省令　第十四號
（抄錄）

第一章　教科及編制

第一節　教則

第一條　小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ趣旨ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ

道德教育及國民教育ニ關聯セル事項ハ何レノ教科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

知識技能ハ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシメンコトヲ務ヘシ

兒童ノ身體ヲ健全ニ發達セシメンコトヲ期シ何レノ教科目ニ於テモ其ノ教授ハ兒童ノ心身發達ノ程度ニ副ハシメンコトヲ要ス

男女ノ特性、其ノ將來ノ生活ニ注意シテ各々適當ノ教育ヲ施サンコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

〔第二條以下第十六條迄ハ各科教授法ニ讓リ省略ス〕

第十七條　尋常小學校各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ハ第四號表ニ依ルヘシ

手工ヲ加フルトキ又ハ第一學年、第二學年ニ於テ圖畫ヲ課スルトキハ其ノ毎週教授時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ノ毎週教授時數ヲ減シ之ニ充ツヘシ

第十七條ノ二　第三十四條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ教科目ノ毎週教授時數ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條　高等小學校各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ハ第五號表又ハ第六號表ニ依ルヘシ

第十八條ノ二ノ規定ニ依リ實業ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ毎週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スヘシ

實業ニ於テ工業ヲ學習スル爲手工ヲ課セサル兒童ニ對シテハ其ノ毎週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科

目ニ配當スルコトヲ得

第三學年ニ於ケル圖畫唱歌ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ其ノ毎週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得

第十八條ノ二　實業ハ特別ノ事情アル場合ニ限リ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第十九條　土地ノ情況ニ依リ管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ左ノ制限内ニ於テ第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル時數ヲ增減スルコトヲ得

一　尋常小學校ノ毎週教授時數ハ三十時ヲ超エ又十八時ヲ下ルコトヲ得ス

一　高等小學校ノ毎週教授時數ハ三十二時ヲ超エ又二十七時ヲ下ルコトヲ得ス

第三十四條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ毎週教授時數ハ各部十八時以上トス但シ年少ノ部ニ在リテハ之ヲ十二時マテニ減スルコトヲ得

第二十條　學校長ハ夏季冬季休業日ノ前後各二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教科目ノ毎週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第二十一條　尋常小學校若ハ高等小學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得

第二十二條　學校長ハ其ノ小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十三條　小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試驗ヲ用フルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

第二十四條　學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書、第二十一條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第二節　學年・休業日及式日

第二十五條　小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ニ依ル學年ノ外土地ノ情況ニ依リ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル學年ヲ置クコトヲ得

小學校ノ學期ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十六條　毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第二十七條　小學校ノ休業日ハ左ノ如シ但シ第三號乃至第六號ノ休業日ハ學年ニ依リ之ヲ異ニスルコトヲ得

一　一月一日及昭和二年勅令第二十五號ニ依リ休日タル祭日祝日

二　日曜日

三　夏季休業日

四　冬季休業日

五　學年末休業日

六　其ノ他府縣知事ノ定ムル休業日

前項第三號乃至第五號ノ休業日數ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二十八條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニ於テハ職員及兒童、學校ニ參集シテ左ノ式ヲ行フヘシ

一　職員及兒童「君カ代」ヲ合唱ス

二　職員及兒童ハ

天皇陛下

皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

三　學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス

四　學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス

五　職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱

ス

御影ヲ拜戴セサル學校及特ニ府縣知事ノ認可ヲ受ケ複寫シタル御影若ハ府縣知事ニ於テ適當ト認メタル御影ヲ奉藏セサル學校ニ於テハ前項第二號ノ式ヲ闕ク

第三節　編制

第二十九條　小學校ノ學級數ハ二十四學級以下トス

特別ノ事情アルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

特別ノ事情ニ依リ小學校ニ於テ分教場ヲ設クルトキハ一分教場ノ學級數ハ六學級以下トシ第一項ノ制限外ト爲スコトヲ得

第三十條　一學級ノ兒童數ハ尋常小學校ニ在リテハ七十人以下、高等小學校ニ在リテハ六十人以下トス

特別ノ事情アルトキハ前項ノ制限ヲ超過シテ各々十人マテヲ增スコトヲ得

第三十一條　尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ該學年ノ學級ヲ別ツヘシ

第一學年及第二學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

高等小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全校女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ學級ヲ別ツヘシ

特別ノ事情アルトキハ第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十三條　修身、體操、唱歌、裁縫、手工、實業及小學校令第二十條第二項ニ依リ加ヘタル教科目ハ數學級ノ全部又ハ一部ノ兒童ヲ合セテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得但シ裁縫、手工、實業ニ就キテハ兒童ノ數七十人ヲ超エサル場合ニ限ル

第三十四條　土地ノ情況ニ依リ尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全部若ハ一部ノ兒童ヲ前後二部ニ分チテ教授スルコトヲ得

第三十五條　尋常小學校ニ於テハ各學級ニ本科正教員一人ヲ置クヘシ

高等小學校ニ於テハ其ノ學級數ニ等シキ員數ノ本科正教員ヲ置クノ外教科目、教授時數、兒童數等ニ應シ必要ナル員數ノ本科正教員又ハ專科正教員ヲ置クヘシ

土地ノ情況ニ依リ尋常小學校ニ在リテハ二學級毎ニ本科正教員一人及准教員一人又ハ三學級毎ニ本科正教員二人ヲ置クコトヲ得

必要アル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ルノ外尚准教員ヲ置キ兒童ノ教授ヲ補助セシムルコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ前後二學級毎ニ本科正教員一人ヲ置クヲ常例トス

第三十六條　六學級以上ノ小學校ニ於テハ學校長ノ擔任スル教授ヲ補助スル爲正教員一人若ハ准教員一人ヲ置クコトヲ得

第三十七條　尋常小學校ニ於テハ適宜專科正教員ヲ置クコトヲ得

第三十八條　補習科ノ學級數ハ第二十九條ニ規定シタル學級數ノ制限外トス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第三十九條　全校兒童ヲ一學級ニ編制スル學校ヲ單級小學校トシ二學級以上ニ編制スル學校ヲ多級小學校トス

第四十一條　小學校ノ學級ヲ編制シ又ハ變更シタルトキハ遲滯ナク管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ニ屆出ツヘシ

第四節　補習科

第四十二條　補習科ハ分チテ尋常小學校補習科及高等小學校補習科トス

尋常小學校補習科ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ尋常小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

高等小學校補習科ハ高等小學校ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲシテ高等小學校ノ教科目ヲ補習セシムルヲ以テ目的トス

第四十三條　補習科ノ教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

前項ノ規定ニ依リ定メタル教科目ハ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

第四十四條　補習科ノ教科用圖書ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十五條　補習科ノ教科ヲ授クルニハ其ノ土地ノ業務ニ適切ナル事項ヲ交フヘシ

第四十六條　補習科ノ修業年限ハ二箇年以下トシ市町村、市町村學校組合又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十七條　補習科ノ教授ハ一定ノ季節ヲ遷ヒテ之ヲ爲スコトヲ得

第四十八條　補習科ノ教授日、教授時間及毎週教授時數ハ兒童ノ便宜ヲ圖リ管理者又ハ設立者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十九條　高等小學校補習科ノ學級ハ男女ヲ合シテ之ヲ編制スルコトヲ得ス但シ其ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十條　補習科ノ教場ハ正教科ヲ授クル校舍外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第五十一條　補習科ノ教授ハ正教科ヲ教授スル教員又ハ代用教員ニ於テ之ヲ擔任スヘシ補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條　第四十三條第一項、第四十四條第四十六條及第四十八條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ認可ヲ受

クヘシ

第五節　教科用圖書

第五十三條　小學校教科用圖書中修身、國語、算術、國史、地理、理科、家事、圖畫ヲ除キ其ノ他ノ圖書ニ限リ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノ及文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ府縣知事之ヲ採定ス但シ體操、裁縫、手工及尋常小學校第四學年以下ノ唱歌ニ關シテハ兒童ニ使用セシムヘキ圖書ヲ採定スルコトヲ得ス又國語書キ方、算術、理科、家事、圖畫ノ教科用圖書及小學地理附圖ハ學校長ニ於テ之ヲ兒童ニ使用セシメサルコトヲ得

第五十三條ノ二　唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ文部省ノ擇定ニ依ルモノ、前條ニ依リ府縣知事ノ採定シタル小學校教科用圖書中ニ在ルモノ及其ノ採用小學校ニ特ニ關係アルモノニシテ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノノ外採用スルコトヲ得ス

第五十四條　小學校令第二十四條第二項又ハ本令第五十三條ニ依リ教科用圖書ヲ採定シタルトキハ之ヲ使用セントスル學年ノ開始ヨリ九十日前ニ其ノ旨ヲ公布スヘシ

特別ノ事情アルトキハ前項ノ公布期限ニ依ラサルコトヲ得

第五十五條　文部大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書ノ定價ヲ增加シタルトキハ其ノ採定ノ效力ヲ失フ

第五十六條　小學校教科用圖書ヲ變更シタル場合ニ於テハ其ノ圖書ハ最下學年ノ兒童ヨリ用セシメ他ノ兒童ニハ從來ノ圖書ヲ襲用セシムヘシ

第五十七條　小學校教科用圖書ノ採定ニ關シ其ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ノ一ニ該當スル所爲アル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

一　直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ官吏、學校職員若ハ運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル者又ハ

供與若ハ申込ヲ承諾セシコトヲ誘致機誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二　直接又ハ間接ニ酒食遊興等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者並是等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三　官吏、學校職員又ハ其ノ關係アル學校法人等ニ對スル利害ノ關係ヲ利用シ直接若ハ間接ニ官吏、學校職員ヲ誘導シ又ハ威逼シタル者及其ノ誘導威逼ニ應シタル者

四　官吏又ハ學校職員ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

五　採定ヲ妨クル目的ヲ以テ新聞紙雜誌張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス官吏又ハ學校職員ニ對シ虛僞ノ事項ヲ流布シタル者

第二章　設備準則

第六十四條　校地、校舍、體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

校地ハ道德上並ニ衛生上害ナク且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ

校舍ハ教育上、管理上並ニ衛生上、適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第七十五條　土地ノ情況ニ依リ成ルヘク教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第七十六條　校舍ヲ新築、增築、改築シ若ハ市町村立高等小學校及私立小學校ノ校地ヲ選定シ又ハ變更セントスルトキハ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三章　就學

第八十條　市町村長ハ其ノ市町村內ニ居住シ翌年四月

ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ第九號表ノ樣式ニ依リ每年十二月末日マテニ其ノ學齡簿ヲ編製スヘシ但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ每年六月末日マテニ學齡簿ヲ編製スヘシ

第八十一條　市町村長ハ學齡簿編製後三月三十一日マテニ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滯ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ但シ第二十五條第二項ニ依ル場合ニ於テハ市町村長ハ學齡簿編製後八月三十一日マテニ其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者ヲ遲滯ナク學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ就學期間中ニ在ル兒童ニシテ其ノ市町村ニ來住シタル者アルトキハ遲滯無ク其ノ兒童ノ就學ノ始期ニ達シタル年ノ學齡簿ニ記入スヘシ

市町村長ハ學齡簿ニ登載ノ兒童ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ遲滯ナク之ヲ抹消スヘシ但シ第二號ニ該當スル者アルトキハ市町村長ハ之ヲ抹消スルト同時ニ學齡簿ノ謄本ヲ兒童ノ轉住地ノ市町村長ニ送付スヘシ

一　兒童死亡シタルトキ

二　兒童市町村外ニ轉住シタルトキ

三　兒童ノ居所一箇年以上分明ナラサルトキ

前項但書ニ依リ學齡簿ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル市町村長ハ送付シタル市町村長ニ對シ遲滯ナク學齡簿ニ記入ノ手續ヲ完了シタル旨又ハ兒童ノ來住セサル旨ヲ通知スヘシ

第二項及第三項ノ外學齡簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第八十二條　市町村長ハ兒童ニシテ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘキ期日ヲ豫メ其ノ保護者ニ通知スヘシ

市町村、町村學校組合又ハ學區ノ使用ニ係ル尋常小

學校二校以上アル場合ニ於テハ市町村長ハ前項ノ通知ヲ爲スニ當リ兒童ノ入學スヘキ尋常小學校ヲ指定スルコトヲ得但シ兒童ノ保護者ハ其ノ兒童ヲ入學セシメントスル尋常小學校ヲ選定シテ之ヲ市町村長ニ申立ツルコトヲ得

第八十三條　市町村長ハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル兒童ノ氏名及入學期日ヲ關係學校長ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第八十四條　就學スヘキ兒童又ハ其ノ保護者ニシテ小學校令第三十三條ニ揭クル事由アルトキハ其ノ保護者ハ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツヘシ但シ貧窮ニ因ル場合ヲ除ク外醫師ノ證明書ヲ添フルコトヲ要ス

第八十五條　就學猶豫ノ期間ハ其年ノ四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ一箇年トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ一箇年以下トス

第二十五條第二項ノ學年ヲ置キタル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ五箇月其ノ年九月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童ニ在リテハ七箇月トシ既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童ニ在リテハ各五箇月以下又ハ七箇月以下トス

第八十六條　市町村長ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ノ教育ヲ監督スヘシ必要ト認メタルトキハ其ノ兒童ニ就キ試驗ヲ行フコトヲ得

第八十七條　市町村長ハ前條ノ兒童ノ教育ヲ不適當ナリト認メタルトキハ小學校令第三十六條第一項ノ但書ノ規定ニ依リ與ヘタル認可ヲ取消スヘシ

第八十八條　兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ當然入學セシムヘキ小學校以外ノ市町村立尋常小學校ニ入學セシメ又ハ官立府縣立學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メントスルトキ若ハ高等學校及中學校ノ豫科又

ハ盲學校及聾唖學校ノ初等部ニ入學セシメントスルトキハ其ノ學校ノ管理者又ハ學校長ノ承認書ヲ添ヘ關係市町村長ニ屆出ツヘシ

第八十九條　市町村立尋常小學校長ハ第十號表ノ樣式ニ依リ學年ノ始ニ於テ入學シタル兒童ノ學籍簿ヲ編製スヘシ

學籍簿ハ入學ノ兒童ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

第九十條　市町村立尋常小學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作リ其ノ出席欵席ヲ明ニスヘシ

第九十一條　市町村立尋常小學校長ハ第八十三條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日以內ニ其ノ小學校ニ入學セサル者アルトキハ其ノ氏名ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十二條　在學兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間欵席シタルトキハ關係學校長ハ遲滯ナク其ノ保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムヘキ旨ヲ通知シ仍引續キ七日以上出席セシメサルトキハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十三條　市町村長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

前項ノ規定ニヨリ二回以上ノ督促ヲナスモ仍就學又ハ出席セシメサルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第九十四條　府縣知事ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係兒童ノ保護者ニ對シ其ノ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

第九十五條　市町村立尋常小學校長ハ每學年ノ終ニ卒業シタル兒童ノ氏名ヲ遲滯ナク關係市町村長ニ報告スヘシ

第九十六條　第八十八條ノ規定又ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ當然入學スヘキ學校以外ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童ニシテ其ノ教

科ヲ卒リタルトキ又ハ其ノ教科ヲ卒ラスシテ退學シ若ハ廢學シタルトキハ關係學校長又ハ兒童ノ保護者ハ其ノ旨ヲ關係市町村長ニ屆出ツヘシ

第四章　教員檢定及免許狀

第一節　教員ノ檢定

第九十八條　小學校教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　會長
一　常任委員
一　臨時委員

第九十九條　會長ハ學務部長タル書記官ヲ以テ之ニ充ツ

常任委員及臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス

臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス、

第百條　會長ハ會務ヲ整理シ檢定ノ成績ヲ府縣知事ニ報告ス

會長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第百一條　常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第百二條　小學校教員檢定委員ニ書記ヲ置キ道府縣判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百三條　會長、常任委員、臨時委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第百四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二　（削除）
三　破產者
四　免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ三箇年ヲ經過セサル者

第百五條　教員ノ檢定ハ分テ無試驗檢定及試驗檢定トシ學力性行及身體ニ就キ之ヲ行フ

第百六條　試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ臨時之ヲ行フ

第百七條　無試驗檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ

一　師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀若ハ高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者
二　高等學校高等科又ハ大學豫科ヲ卒ヘタル者
三　文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者
四　中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者
五　公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ノ卒業者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者及一般ノ

專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

六　其ノ他府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

前項第四號第五號ニ該當スル者ニ對シ小學校本科正教員ノ檢定ヲ行フ場合ハ卒業後二箇年以上小學校教育ニ從事シタル者又ハ高等女學校ヲ卒業シ高等女學校ノ高等科、專攻科若ハ修業年限一年以上ノ補習科ニ於テ小學校教員ニ適スル教育ヲ受ケ卒業シタル者ニ限ル

第百八條　小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校男生徒、女子ニ在リテハ師範學校女生徒ニ課スル學科程度ニ準ス但シ手工、農商業、英語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

本條ニ小學校正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ本科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百九條　小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ

如シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

修身　道德ノ要旨

教育　教育、教授法ノ大要

國語　普通文及小學校教科用讀本ノ講讀竝ニ作文、習字

算術　整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積、代數及幾何ノ初歩

歴史　國史ノ大要

地理　日本地理及外國地理ノ大要

理科　博物、物理、化學ノ大要

圖畫　自在畫及簡易ナル幾何畫

音樂　唱歌、樂器使用法

體操　體操、教練、遊戲及競技

裁縫　通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

手工　手工ノ大要

農業　農業ノ大要

商業　商業ノ大要

前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル

圖畫、音樂、手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

本條ニ小學校准教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ准教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百十條　小學校專科正教員ノ試驗科目ハ音樂、體操、裁縫、手工、農業、工業、商業、家事、圖畫、外國語ノ一科目若ハ數科目トス

府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項試驗科目ノ外必要ナル科目ニ付試驗ヲ行フコトヲ得

試驗科目ノ程度ハ師範學校生徒ニ課スル各科目ノ程度ニ準ス但シ前項ノ試驗科目ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

各科目ノ試驗ハ教育ノ大要及受驗科目ノ教授法ヲ附帶セシメ之ヲ行フ

小學校專科正教員ノ試驗ハ小學校教員檢定委員會ニ

於テ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認メタル者ニアラサレハ之ヲ行ハス

本條ニ小學校專科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ專科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百十一條　尋常小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

修身　道德ノ要旨

教育　教育、教授法及學校管理法ノ大要

國語　普通文及小學及教科用讀本ノ講讀竝ニ作文、習字

算術　整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積

歴史　國史ノ大要

地理　日本地理及外國地理ノ大要

理科　博物、物理、化學ノ大要

圖畫　自在畫

音樂　唱歌、樂器使用法

體操　體操、教練、遊戲及競技

裁縫　通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル

第百十二條　尋常小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ女子ニ在リテハ體操ハ第百十一條第一項但書ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

修身　道德ノ要旨

教育　教育、教授法ノ大要

國語　小學校教科用讀本ノ講讀竝ニ作文、習字

算術　整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例

歴史　國史ノ大要

地理　日本地理及外國地理ノ大要

理科　博物、物理、化學ノ初歩

圖畫　簡易ナル自在畫

唱歌　單音唱歌

體操　體操、教練、遊戲及競技

圖畫　唱歌ノ一科目若ハ二科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

第百十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ試驗檢定ヲ行フトキハ小學校教員檢定委員會ニ於テ第百八條乃至第百十條ノ規定ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對ツテハ其ノ科目ノ試驗ヲ闕クコトヲ得

一　師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀若ハ高等學校高等科教員免許狀ヲ有スル者

二　小學校教員免許狀ヲ有スル者

三　文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四　小學校教員免許狀又ハ小學師範學科卒業證書ヲ有シ其ノ有效期間滿チタル者

五　小學校教員講習科ヲ卒リタル者

六　中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

七　公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ヲ卒業シタル者、專門學校入學者檢定規定ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者及一般ノ專門學校入學ニ關シ無試驗檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

第百十四條　試驗檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試驗ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキハ府縣知事ハ其ノ科目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ闕ク

第百十五條　府縣知事ハ檢定手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第二節　教員ノ免許狀

第百十七條　師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シ小學校教員免許狀ノ授與ヲ府縣知事ニ申請スヘシ

第百十九條　府縣知事ハ小學校教員免許狀登錄簿ヲ作リ免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記入スヘシ

第百二十條　免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ府縣知事ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手數料トシテ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ

第百二十一條　免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ變更ハ府縣知事之ヲ公告ス

第五章　職員

第一節　學校長及教員ノ進退

第百二十二條　市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得

一　傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ

二　學校編制ノ變更又ハ廢廳ノ處分ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

三　教員養成ヲ目的トスル官立、府縣立學校ニ入學スルトキ

四　名譽職タル町村長及助役ニ當選シタルトキ

五　私立小學校ノ教員又ハ外國ニ於テ本邦人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ

六　刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

七　（削除）

第百二十三條　市町村立小學校正教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ兵役法第十條ノ規定ニ依リ短期現役兵トシテ服役スル者ハ此ノ限ニアラス

第百二十四條　休職ノ期間ハ第百二十二條第一號第二號第四號及第五號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第六號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中

トシ同條第三號及第百二十三條ノ場合ニ在リテハ其事故止ミタル後尚三箇月、第百二十二條第七號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尚一箇月トス但シ第百二十二條第五號後段ノ場合ニ在リテハ府縣知事ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第百二十五條　休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第百二十六條　市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

一　不具、廢疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

三　休職者復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキ

第百二十七條　第百二十二條又ハ第百二十六條ノ理由ニ因ラスシテ休職又ハ退職ヲ命スル必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ休職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定メテ具申スルコトヲ要ス

第百二十八條　市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一　當該學校ノ廢セラレタルトキ

二　休職期間滿チタルトキ

第百二十九條　市町村立小學校教員ニシテ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ免許狀ニシテ效力ヲ失ヒタルトキハ當然其職ヲ失フ

第百三十條　市町村立小學校准教員ノ進退ニ關スル規定ハ府縣知事之ヲ定ム

第百三十二條　私立小學校長及教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ運滯ナク府縣知事ニ届出ツヘシ

第二節　學校長及教員ノ職務及服役

第百三十三條　學校長及教員ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ率體シ法律命令ニ從ヒ職務ニ服スヘシ

第百三十四條　學校長ハ校務ヲ整理シ所屬職員ヲ統督ス

第百三十五條　正教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第百三十六條　准教員ハ本科正教員ノ職務ヲ助ク

第百三十七條　市町村立小學校長及教員ハ當該學校所在ノ市町村、市町村學校組合、町村學校組合ノ地域內ニ居住スヘシ但シ學校長ニ在リテハ府縣知事、其ノ他ノ者ニ在リテハ學校長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住スヘキ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第百三十八條　學校長及教員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ業務執行社員、取締役、監査役ト爲リ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ府縣知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニアラサレハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス

第三節　懲戒處分・業務停止及免許狀褫奪

第百三十九條　市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ府縣知事ハ期間ヲ定メテ本人ヨリ手續書ヲ徵スルコトヲ要ス但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限ニアラス

第百四十條　懲戒處分ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第百四十一條　市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ府縣知事ハ本人ニ處分書ヲ交付スヘ

第百四十二條　市町村立小學校長及教員ノ減俸ハ一箇月以上一箇年以下減俸ノ處分ヲ受ケタル當時ノ俸給月額ノ三分ノ一以下ヲ減給ス

第百四十三條　市町村立小學校教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二箇年ヲ經ルニアラサレハ教員ノ職ニ就クコトヲ得ス

第百四十四條　第百三十九條乃至第百四十一條ノ規定ハ業務停止、免許狀褫奪ノ處分ニ關シ之ヲ準用ス

第百四十五條　私立小學校長及教員ノ業務停止ハ一箇月以上二箇年以下トス

第百四十六條　府縣知事ニ於テ學校長又ハ教員ニ對シ免職、業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

第百四十七條　府縣知事ハ免職又ハ業務停止ノ處分ヲ受ケタル學校長及教員ニシテ改悛ノ實顯著ナリト認メタル者ニハ第百四十三條ノ期間內又ハ業務停止ノ期間內ト雖モ文部大臣ノ認可ヲ受ケ教員ノ職ニ就クコトヲ得シメ又ハ業務停止ヲ解クコトヲ得

第四節　俸給旅費及諸給與準則

第百四十八條　教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ（この表は本文中に掲げてあるからこれを略する）

第百四十九條　一級俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ本科正教員ニ在リテハ二百四十圓マテ專科正教員ニ在リテハ百六十圓マテ漸次增給スルコトヲ得

第百五十條　教員ノ俸給ハ當分ノ內等級相當ノ額ヲ減シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第百五十一條　專科正教員ニシテ他ノ小學校ノ專科教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

第百五十二條　教員ノ俸給ハ其ノ官ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第百五十三條　休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス但シ市町村、市町村學校組合町村學校組合又ハ其ノ學區ニ於テ特別ノ事情アル場合若ハ第百二十二條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ給セサルコトヲ得

第百五十三條ノ二　市町村立小學校正教員ニシテ兵役法第十條ノ規定ニ依ル短期現役ニ服スル者ハ其ノ在營中俸給ノ三分ノ二ヲ減ス

第百五十四條　教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ俸給ノ一部若ハ全部ヲ給ス但シ其ノ額ハ府縣知事ニ於テ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ學區ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

第百五十五條　教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受ケタル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第百五十六條　教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一　懲戒ニ依リ免職セラレタルトキ

二　免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失效ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第百五十七條　教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額四箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ

前項ノ遺族其ノ順位ニ關シテハ判任官俸給令第十三條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第百五十八條　正教員ノ旅費額ハ判任文官ノ例ニ準シ之ヲ定メ准教員ノ旅費額ハ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ但シ正教員ニシテ奏任文官ト同一待遇ヲ受クル學校長ヲ兼務スル者ノ旅費額ハ奏任文官ノ例ニ準シ之ヲ定ムヘシ

第百五十九條　教員ニシテ一週三十二時ヲ超ユル教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給スヘシ

第百六十條　學校長又ハ教員ニシテ特ニ勳勞アル者ニ

ハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得

第百六十一條　教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ

第百六十二條　學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第百六十三條　教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第百六十四條　第百五十九條及第百六十條ニ依リ給スル金額ハ府縣知事ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第百六十一條乃至第百六十三條ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ

第百六十五條　本節ニ規定アルモノヲ除ク外俸給及旅費ノ支給方法ハ判任文官ノ例ニ準シ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第百六十六條　第百四十八條ニ揭クル表ニ依リ難キ事情アルトキハ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百七十條　本節ニ學校長、教員トアルハ市町村立小學校ノ學校長、教員ヲ謂フ

第五節　代用教員

第百六十八條　市町村立小學校代用教員ノ採用、解職及懲戒處分ハ市町村立小學校准教員ノ例ニ依ル

第百六十九條（削除）

第百七十條　私立小學校代用教員ノ採用解職ニ關シテハ第百三十二條ノ規定ヲ準用ス

第百七十一條　小學校令第四十七條ノ規定並ニ本令第五章第二節ノ規定中准教員ニ關スルモノハ代用教員ニ準用ス

第百七十二條　府縣知事ニ於テ私立小學校代用教員ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ解職セシムルコトヲ得

第百七十三條　市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規定ハ府縣知事之ヲ定ム

第六節　授業料

第百七十四條　尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徴收セントスルトキハ市ニ在リテハ一箇月二十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第百七十五條　高等小學校ニ於テ徴收スル授業料ハ市又ハ市町村學校組合ニ在リテハ一箇月六十錢以下、町村又ハ町村學校組合ニ在リテハ一箇月三十錢以下ニ於テ其ノ金額ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第百七十六條　特別ノ事情アルトキハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ期間ヲ定メテ前二條ノ制限ヲ超エタル授業料ヲ徴收スルコトヲ得

第百七十七條　小學校補習科ノ授業料額ハ市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第百七十八條　小學校ニ於テハ學年ニ依リ授業料額ニ差等ヲ設クルコトヲ得ス

第百七十九條　他ノ小學校設置負擔ノ區域ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ第百七十四條及第百七十五條ノ制限以内ニ於テ授業料額ヲ增スコトヲ得但シ兒童教育事務ヲ委託シタル市町村、市町村學校組合又ハ學區ヨリ入學スル兒童ニ就キテハ此ノ限ニアラス

第百八十條　貧窮ノ爲授業料ヲ納ムルコト能ハサル者ニ對シテハ管理者ハ授業料ノ全部又ハ一部ヲ免除スヘシ

一家ノ兒童二人以上同時ニ小學校ニ就學スルトキハ管理者ハ授業料額ヲ減スルコトヲ得

第百八十一條　本章ノ規定ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用セス

第七節　學務委員

第百八十二條　市町村、市町村學校組合、町村學校組合並學區ノ學務委員ハ十人以下トス但シ東京市ニ在リテハ二十五人、大阪市ニ在リテハ二十人マテニ增スコトヲ得

第百八十三條　學務委員ハ左ニ揭クル事項ニ就キ市町村長、市町村學校組合管理者、町村學校組合管理者區長竝ニ其ノ代理者ヲ補助シ又ハ其ノ諮問ニ應シテ意見ヲ陳述ス

一　就學督促ニ關スルコト

二　家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ認可ニ關スルコト

三　就學義務ノ免除又ハ猶豫ノ猶豫ニ關スルコト

四　設備ニ關スルコト

五　經費豫算ノ調製ニ關スルコト

六　授業料ニ關スルコト

七　學校基本財產ニ關スルコト

八　教科目ノ加除選定ニ關スルコト

九　修業年限ニ關スルコト

十　補習科ノ設置廢止ニ關スルコト

第百八十四條　公民中ヨリ選擧セラレタル學務委員ノ任期ハ四箇年トス

補缺選擧ニ依リ就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第百八十五條　學務委員ニシテ資格ノ要件ヲ失ヒタル者ハ當然其ノ職ヲ失フ

第八節　小學校ニ類スル各種學校

第二百九條　小學校ニ類スル各種學校ニハ學校長ヲ置クコトヲ得

第二百十條　小學校ニ類スル各種學校教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ府縣知事ノ免許ヲ得タル者タルヘシ

第二百十一條　小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ採用、解職、懲戒處分、業務停止ハ小學校教員ノ例ニ依ル

市町村立ノ小學校ニ類スル各種學校ノ學校長及教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

昭和十一年四月十五日　印刷
昭和十一年四月二十日　發行

著作權所有

教育科短期合格の眞髓
定價　壹圓五拾錢

著作者　川上正治
東京市豐島區池袋二ノ九四〇

發行者　鈴木照彌
東京市牛込區若松町五番

印刷者　大杉直次郎

印刷所　大杉

發行所　新生閣
東京市豐島區池袋二丁目
振替口座東京五八四八五番

大賣捌所
東京　東京堂・東海堂・北隆館・井田書店
大阪支店　盛文館・中京・島野書店
九州　菊竹金文堂・九州盛文館・大坪書店

小學教員受驗眞髓叢書一覽

靜岡縣師範前教諭 小學教員檢定試驗問題の體系的精解	關富吉先生著	教育學受驗の眞髓	(新刊)	價一・五〇	送一〇		
靜岡縣師範前教諭 小學教員檢定試驗問題の體系的精解	關富吉先生著	心理學受驗の眞髓	(新刊)	價一・四〇	送一〇		
靜岡縣師範前教諭 小學教員檢定試驗問題の體系的精解	關富吉先生著	學校管理法受驗の眞髓	(新刊)	價一・四〇	送一〇		
靜岡縣師範前教諭 小學教員檢定試驗問題の體系的精解	關富吉先生著	各科教授法受驗の眞髓	(新刊)	價二・〇〇	送一〇		
愛知縣知多高女教諭 小學教員檢定試驗問題の體系的精解	武內たか先生著	裁縫教授法受驗の眞髓	(新刊)	價一・五〇	送一〇		
神奈川縣女子師範教諭 小學教員檢定試驗問題の體系的精解	杉山基一先生著	手工科受驗の眞髓	(近刊)	定價不明			
大分縣師範教諭 小學教員檢定試驗問題の體系的精解	武藤完一先生著	圖畫科受驗の眞髓	(近刊)	定價不明			
奈良縣師範教諭 小學教員檢定試驗問題の體系的精解	小田切鶴松先生著	農業科受驗の眞髓	(近刊)	定價不明			
長崎縣師範教諭 小學教員檢定試驗問題の體系的精解	岡山直先生著	音樂科受驗の眞髓	(近刊)	定價不明			

發行所 東京市豐島區池袋二丁目 振替東京五八四八五番 新生閣

月雜誌刊 小學教員受驗

★讀めば必ず合格する 教員受驗界の王

獨學者の味方!! 一言一句! 無駄のない!! 尋准尋正・專正・本正檢定專門雜誌!!

全國各府縣小學檢定試驗委員執筆

卷頭讀物
獨學にて文檢高教へ征服して高等學校教授大學教授となつた全國の諸先輩の苦心談を毎號執筆願つてゐるこれこそ獨學者の血となり肉となる讀物である!

特別讀物
その月によつて受驗者の必讀すべき讀物を全國の檢定委員諸先生に御寄稿を乞ひ諸先生並に合格者諸先輩諸先生に編輯せるこの頁は毎月大好評を得て居ります。この點は最も本誌の誇りとするところであります。

受驗講座
教育・音樂・圖畫・手工・體操・修身・農業等の受驗者の最も至難とする學科を最も解り易く解說した名講座です執筆諸先生は全國委員の方々であります。

最近施行問題解答
全國にて最近施行の問題模範解答を試驗委員先生に御執筆を願ひ標準解答を全國合格者の諸先生に依賴し執筆を願つてゐますこれ實に合格の眞髓を摑む絕對讀物

□懸賞通信模擬試驗問題解答募集
□最近施行教員檢定各種各科問題集

檢定實話
全國獨學受驗合格者の語る血潮のにじむ苦心談を毎號致します
× × ×

就職實話
全國合格者の赤裸なる就職運動成功實話を毎號致します
× × ×

○受驗ニュース ○受驗サロン ○受驗相談 ○受驗手續 ○受驗文苑 ○其の他教員受驗に關する記事滿載さる。

每月十二日 全國書店にて發賣 定價廿五錢 送料一錢

申込見本御請求第三種郵便送れ

發行所 東京市豐島區池袋二丁目 振替東京五八四八五番 新生閣

¥1. 50